

# NEWS 九大病院ニュース

2011.3 Vol.15

## CONTENTS

### 2 特集／新しいステージへ 九州大学病院別府病院

九州大学病院別府先進医療センター長／内科長（循環・呼吸・老年病内科） 牧野 直樹

### 4 世界初「超高速超低電力の次世代植え込み型除細動システム」の開発

循環器内科長 教授 砂川 賢二

### 5 内視鏡手術シリーズ11. 耳鼻科領域

耳鼻咽喉・頭頸部外科 村上 大輔

### 6 医療法人 祥知会 はこぎ公園内科医院

理事長／院長 友岡 卓

透析患者の退院支援 —— 待機期間が長い入院透析患者さんの受け入れの現状

地域医療連携センター 副センター長／看護師長 岩谷 友子

### 7 喀痰吸引実技認定講習会を開催して

医療技術部長 大屋 信義

広域ネットワーク型臨床研究推進事業

—— 慢性肝疾患の北部九州大規模コホート研究

総合診療科、肝臓・膵臓・胆道内科、免疫・膠原病・感染症

内科、九州大学関連肝疾患研究会 代表：総合診療科 林 純

### 8 学会・セミナーのご案内

九州大学病院



# 新しいステージへ 九州大学病院別府病院

## 別府病院の軌跡

### —— 発足から別府先進医療センター開設まで

九州大学病院別府先進医療センターは平成23年4月より組織改編に伴い、「九州大学病院別府病院」へ病院名を変更する運びとなりました。

別府病院は、昭和6年に九州帝国大学温泉治療学研究所の診療部門として発足しました。昭和39年に温泉治療学研究所附属病院として内科、外科、産婦人科、そして皮膚泌尿器科が設置されました。昭和57年には時代の要請に応じ、生体防御医学研究所附属病院に改組され、研究所が掲げる生体防御に関する学理とその応用研究という目的に沿って、平成2年から4年にかけて、既存の診療科をリウマチ膠原病内科、体質代謝内科、気功内科、腫瘍外科、生殖内分泌婦人科へと変更し、基礎から臨床への一貫した研究診療体制を整備しました。

平成7年から9年にかけて、病棟・中央診療棟、理学療法棟の施設を改修し、放射線診断、治療などのための医療機器の整備などに力を注ぎ、病院の整備を医療技術の向上にむけて進めてきました。

平成15年10月より、九州大学の三病院（医学部附属病院、歯学部附属病院、生体防御医学研究所附属病院）の統合に伴い、地域や時代のニーズに対応できる新しい型の病院として九州大学病院別府先進医療センターに衣替えいたしました。診療科を統合再編し、遺伝子治療などの最先端医療は、先端分子・細胞治療科として福岡地区で診療を開始しました。

別府地区における先進的な医療センターとして先端的研究と優れた環境と、蓄えられた伝統と実績を踏まえ、免疫・生活習慣病内科（免疫・血液・代謝内科、循環・呼吸・老年病内科）、がん治療科（外科）を設置し、患者さんに優しく、侵襲・副作用の少ない先進的医療の開発を進めてきました。

## 地域と時代の要請に応えて

### —— 最新の放射線治療と整形外科の新設

平成21年から従来の内科、外科に加え新たに放射線科を開設し、最新鋭の放射線治療装置（リニアック）ならびに画像診断装置（CT、MRI、血管造影アンギオ装置）を導入し、3名の放射線専門医によるスタッフの充実を図りました。



放射線科リニアック

そしてこのたび整形外科（脊椎外科）を本年4月から新設し、脊椎疾患（頸椎椎間板ヘルニア、リウマチ頸椎、頸椎症、脊柱管狭窄症、側弯症など）を主体に診療を開始いたします。整形外科受診の患者さんには手術からリハビリテーションまで一貫した治療が受けられる体制を整備しました。特に内視鏡・顕微鏡を用いた低侵襲手術や、脊椎圧迫骨折に対しセメントを用いた手術（バルーンカイフォプラステイ）など、患者さんの生活の質の向上に大きく貢献できることが期待されます。

## 充実したリハビリテーションを可能にする 中央診療施設の配備

九州大学別府病院は病床数140床のところ、当面は内科、外科、整形外科、放射線科の4科をもって104床で運用します。図1にその診療内容を記載しています。このような新たな展開に向けて、休床しておりました2階病棟の運用を再開し、4月から2階、4階、5階で診療体制をとっています。医師数は病理医、麻酔医を加えて総勢19名の教員と医員10名の体制で診療を行います。

また、中央診療施設はリハビリテーションを主体とした慢性疾患診療部、検査室、手術室、診療放射線室など9室を設け充実した体制をとっています（図2）。慢性疾患診療部には温泉プールが常設されており、リウマチ疾患、心臓疾患、呼吸器疾患などに加えて、整形外科的疾患のリハビリテーションにも活用できると思います。このように、温泉地である特性を活かした治療を積極的に取り入れたリハビリテーションは全国的にも少なく、本院のセールスポイントの一つであります。上記の診療科体制の充実により対応できる疾患の幅も広がり、さらに多くの患者さんのQOLや日常生活動作ADL改善に貢献できるものと期待しています。

科別	診療区分
内科	生活習慣病
	血液疾患
	リウマチ膠原病
	循環器疾患
	神経疾患
	老年病
外科	消化器疾患（がん・良性）
	乳腺疾患
	疼痛治療
整形外科	脊椎外科
	リハビリテーション
放射線科	三次元原体放射線治療
	強度変調放射線治療
	放射線画像診断

図1 九州大学病院別府病院 各科診療内容

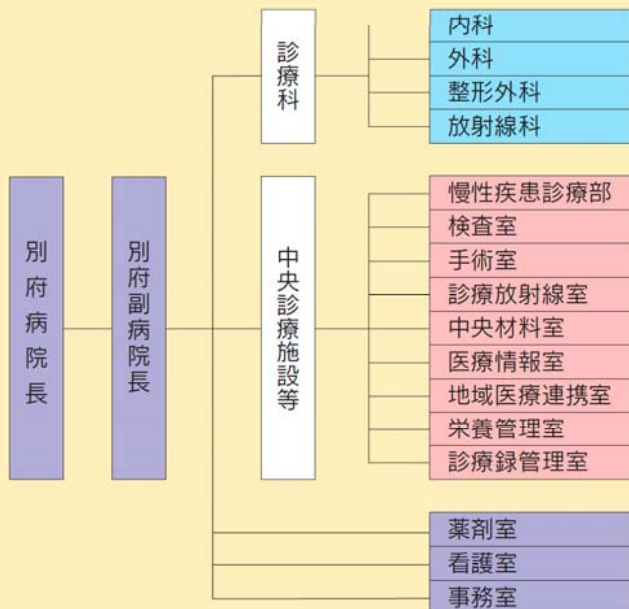


図2 九州大学病院別府病院 組織図(平成 23 年4月1日現在)

**地域に根ざした発展的な医療体制の確立**

我が国では高齢者人口の増加とともに、がん、糖尿病・高血圧症・高脂血症などの生活習慣病や、加齢に伴う骨疾患などの増加が医学・医療や医療経済のうえで重大な問題になっています。現在まで別府病院は高度先進医療の研究開発を担うと同時に、「患者さんの生活の質が向上できる医療」を提供することを目的に、診療・研究を行ってきました。その中で近年の医学・医療の進歩により、救命はできたものの重い後遺症に悩んだり、寝たきりになる患者さんに対して損傷した器官や組織を修復し、失われた機能を取り戻すという機能再生医療は重要な課題であります。

特に別府市は温泉地という立地条件に恵まれ、温熱療法を活かし医療に応用するのに好適な条件が揃っています。すでに、温浴実験により全身の血行改善による褥瘡治癒促進や、疼痛緩和などの治療効果を確認しています。このように別府病院の病院機能の有効利用と地域連携・地域貢献を視野に入れた診療は臨床研究としての観点からも重要です。

もう一つ別府病院の外科ではこれまで乳がんの患者さんの乳房全摘出後の乳房再建に脂肪幹細胞移植を行った再生医療を経験しており、細胞収集から幹細胞移植ステップまでの手技に習熟しています。これは、カリフォルニア大学サンディエゴ校マーク・ヘドリック教授らとの共同研究で、患者さんの皮下脂肪より自己脂肪由来幹細胞を採取し、これを難治性消化管瘻孔



九州大学病院別府先進医療センター長  
／内科長(循環・呼吸・老年病内科) **牧野 直樹**  
(九州大学病院別府病院長 4月1日より)

や乳房温存術後乳房再建に応用することを試みてきました。

これまで、別府病院に設置するヒト細胞培養施設を利用して乳がんでは合計10例に施行し、MRIで局所血流回復を確認し高いQOLを得ています。これからは機能再生療法に加えて、再生細胞移植に温熱療法を併用することや、組織幹細胞やiPS細胞を用いた新たな再生医療プロジェクトを立ち上げ、再生移植医療も発展させて行きたいと思えます。

また地域の他の医療機関との連携をより緊密にし、迅速かつ効率よく対応するために、従来の病診連携室を「地域医療連携室」と改変し、病院玄関から入ってすぐのもっともわかりやすい場所に設置いたしました。その中でフリーダイヤルの設置、人員の増員、ホームページの充実など病院の広報活動をより一層強化して行きたいと思えます。このように地域連携の更なる充実を図ることで、よりスムーズな医療連携、きめの細かい医療の提供につなげたいと考えています。

別府病院は別府市の高台に位置し、静かで緑の豊富な広い敷地に立地する恵まれた環境です。春はさくらが満開になり秋には紅葉が鮮やかとなります。九州大学病院別府病院では従来にもまして患者さんに満足していただけるべく、質の高い医療を提供するために職員一同さらなる努力をしております。

患者さんの健康の増進と生活の質の向上にむけて、より一層地域医療に貢献してゆく所存であります。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。



胃 GIST に対する腹腔鏡手術



細胞調整を実施中の様子



## 世界初「超高速超低電力の次世代植え込み型除細動システム」の開発

循環器内科長 教授 砂川 賢二

### 研究の背景と必要性

先進国では高齢人口の増加にともない、循環器疾患が爆発的に増加し（日本：3,500万人、世界：10億人）、循環器疾患の最終像である慢性心不全が激増しています。それにもかかわらず慢性心不全の治療はまだまだ発展途上であり、より効果の高い治療法の開発が望まれています。

この課題に対して、近年の研究では「植え込み型除細動器で慢性心不全の患者さんの生存率が改善する」ことが明らかになりました。従来、植え込み型除細動器は致死的不整脈を持つ患者さんに適用されてきましたが、慢性心不全では心室細動などの致死的不整脈を起こす可能性が高いことが知られており、この装置によって慢性心不全の患者さんの突然死を未然に防ぐことができるというわけです。

しかしながら、現在の植え込み型除細動器にはまだ改善すべき点はいくつかあり、そのまますべての慢性心不全の患者さんに使用するには、時期尚早と考えられます。例えば、致死的不整脈を止めるために比較的大きな電流を体に流す必要があり、除細動の際に痛みを感じてしまいます。さらに、稀に起きる不適切除細動が、精神的にも負担になる方がいます。また、現在の装置では診断＋充電のプロセスで5－10秒を要するため、気を失う前に不整脈を止められないこともあります。



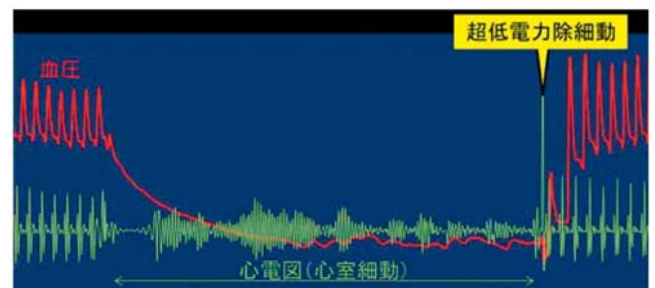
共同研究の風景（TV 会議システム）

### 超高速超低電力の次世代植え込み型除細動システムについて

私たちはこれらの問題点を改善すべく、超低電力で除細動でき、さらに高速高精度な診断アルゴリズムを

搭載した次世代の無痛性除細動システムの開発に着手しました。今回の開発にあたっては産学官を挙げて、九州大学のほか東京大学、東北大学、国立循環器病研究センターなどが共同して開発に取り組んでいます。

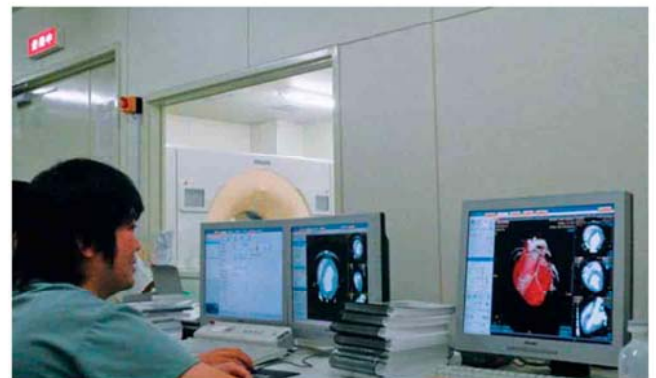
現時点で除細動時に用いる電力を飛躍的に低下することに成功しており、診断アルゴリズムも従来のものをはるかに上回る精度と速度が達成されています。このほかにも心不全を予防する機能、通信網を用いた心不全の状態を遠隔でモニタする機能など、高付加機能を搭載する予定です。



超低電力除細動の検証試験

### 進行状況

現在、すでに実用可能な大きさまで植え込み装置を小型化しており、最終的には高機能でありながら、現在普及している植え込み型除細動器と同等の大きさまで小型化する予定です。これまでの開発ではスーパーコンピュータ上で最適な電極形状や除細動波形、診断アルゴリズムを検討したり、世界最高レベルの分解能をもつマルチスライス CT などを使って電極位置や心臓にあたる影響を検討してきました。この次世代除細動システムを患者さんに使えるようになるのは数年後を予定しています。



高性能マルチスライス CT



# 内視鏡手術シリーズ 耳鼻科領域 [第11回]

耳鼻咽喉・頭頸部外科 村上 大輔

今もっとも注目されている外科手術法の一つに内視鏡手術があげられます。

シリーズ第11回目は耳鼻科領域の内視鏡手術について、耳鼻咽喉・頭頸部外科 村上大輔医師が回答します。

## Q. 耳鼻科領域での内視鏡手術はいつ頃から始まりましたか？どのくらいの症例数がありますか？

当科では、平成7年から内視鏡を用いた鼻副鼻腔手術を行っています。現在では、年間100名を超える患者さんに手術を行い、これまでに1,000名以上の実績があります。昨年度の手術内訳を表1に示します。

## Q. 手術の適応についてお聞かせください。

主な対象疾患は内服薬での治療で改善しない慢性副鼻腔炎です。副鼻腔はいくつかの空洞に別れ、鼻腔とつながっていますが、副鼻腔の病的な粘膜を手術で取り除き、各副鼻腔をひと続きの空洞として、鼻腔へ大きく開放します(図1)。最近は喘息を合併し、鼻内のポリープや嗅覚障害を伴う難治性の副鼻腔炎(好酸球性副鼻腔炎)に対する手術が増加しています。

またアレルギー性鼻炎の患者さんに対しても内服薬で症状が改善しない、できるだけ内服薬を服用したくないなど患者さんの病態やニーズに合わせて鼻水や鼻づまりを軽減するために、後鼻神経切断術や下鼻甲粘膜下骨切除術、鼻中隔矯正術なども行っています。

## Q. 一般的な術後の経過をお聞かせください。

術後問題がなければ、手術当日から食事を含む通常の生活を送ることができます。創部からの出血を予防するために鼻内にガーゼを2、3日留置しますが出血が収まれば術後1週間程度で退院となります。鼻内手術では術後の鼻処置を適切に行わないとせっかく手術を行っても傷が癒着したり開放部分が閉鎖したりすることがあります。退院後も鼻内の傷が完全に治るまでの約1か月間、週1回外来を受診し、処置を受けることが重要です。

## Q. 手術創と手術後の経過はどのようになりますか？

鼻の穴から内視鏡と手術器具を挿入し手術をするので顔に傷が残ることはありません(図2)。

## Q. 主なメリットについてお聞かせください。

一番の利点は、内視鏡で拡大して手術を行うので良好な視野が得られ、狭い鼻内でも安全で確実な手術ができることです。

また、従来の副鼻腔手術は上唇の裏を切ってアプローチをする方法でしたので、術後の頬の腫れ、強い痛み、頬の痺れが残るといった症状がありましたが、鼻内手術ではそういった症状はありません。

## Q. 現在の取り組みについてお聞かせください。

近年のCT画像や手術器具の進歩は目覚ましいものがあります。術前検査で病変位置、深さ、広がりが正確に把握できるようになったため、それらの情報をもとに検討を行い、個々の患者さんにもっとも適した方法を選択し、実施しています。

かつては顔にメスを入れていた前頭洞、眼窩底骨折、鼻腔腫瘍の手術も極力侵襲の少ない内視鏡を用いた鼻内手術を行っています。

また解剖学的に難しい場所(頭蓋底や内頸動脈、視神経管近傍)にある病変に対しては、安全のためナビゲーションシステムを併用した手術を行っています。(聞き手: 寅田信博)

手術名	例数
慢性副鼻腔炎に対する副鼻腔根本術	47
副鼻腔嚢胞開放術	18
下鼻甲粘膜下骨切除術	16
鼻中隔矯正術	16
後鼻神経切断術	21
眼窩底骨折整復術	6
鼻腔腫瘍切除術	6
鼻出血止血術	1
合計(一部手術の重複あり)	131

表1 内視鏡下鼻副鼻腔手術の内訳(平成22年度)

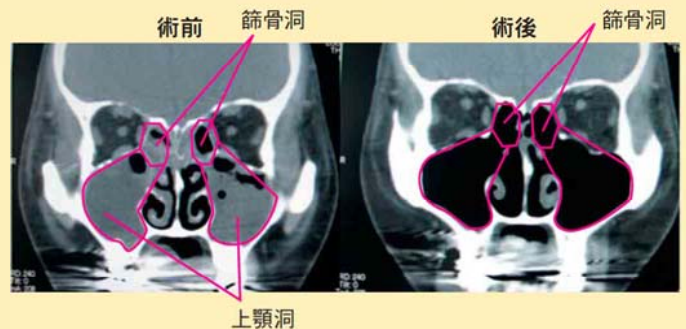


図1 術前後のCT画像

術前: 両側の篩骨洞上顎洞炎を認める

術後: 篩骨洞、上顎洞は中鼻道に大きく開放、副鼻腔炎は寛解している



図2 手術風景

鼻の穴から内視鏡、手術器具を挿入し、拡大した術野をモニターで見ながら手術を行っています。

内視鏡手術の適応に関するご相談・ご紹介は随時受け付けています。

耳鼻咽喉・頭頸部外科鼻外来までお気軽にお問い合わせください (TEL: 092-642-5681 初診日: 火・木、再診日: 水)。  
九州大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科 <http://www.qent.med.kyushu-u.ac.jp/>

平成5年に香椎駅前で開業、その後手狭となり、平成8年から現在の東区原田に移転して15年になります。2万坪の公園の緑に囲まれた環境の中で、一般内科と透析治療を行っています。

腎臓専門医2人（4月から3人になります）、消化器内科専門医1人が常勤で、木曜に九州大学病院循環器内科、土曜に消化器内科から応援に来てもらっています。

透析装置は100台で、透析患者さん数は206人（平成23年3月1日現在）、平均年齢64.6歳、男女比65：35、夜間透析51人（9割男性）、糖尿病を原疾患とする患者さんは73人です。全国の状況と同様に高齢化、糖尿病の増加、それにとまなう心臓、脳を含む全身の血管合併症と認知症がますます問題となっています。

週3回各5時間の透析は必須ながらも患者さんの精神・肉体的、経済的負担は大きく、半数の患者さんには送迎を行っています。

外来（約500人/月）で腎臓病患者さんも多く診ていますが、近頃の慢性腎臓病（CKD）キャンペーンのおかげで尿検査異常、あるいは軽度腎機能異常の紹介が増え、腎不全の進行を遅らせることができているような印象を受けます。とはいえ透析の医療費は我が

国では1兆円を超え、糖尿病、高血圧、慢性腎炎などCKDの原因疾患に対する新薬や遺伝子治療の進歩を期待しますし、移植が少ない我が国の状況では再生医療の実現が待たれます。

九州大学病院に要望：これまでは「知り合い」に電話して受診や緊急入院を依頼していましたが、偉くなって栄転や教授に昇進となり直接電話がしにくくなりました。こちらの勉強不足を斟酌してくれる、臓器あるいは疾患別の優しい先生がホットラインで相談に乗ってくれるとありがたいです。



## 透析患者の退院支援

### —— 待機期間が長い入院透析患者さんの受け入れの現状

地域医療連携センター 副センター長／看護師長 **岩谷 友子**

今回は、末期腎不全の診断により週3回の人工透析が必要な患者さんの退院支援について紹介します。

さまざまな原因によって、腎不全を発症し人工透析が必要な患者さんの療養を継続する病院（特に入院透析）を探すことは非常に困難な状況です。入院透析の可能な療養病院は少なく、また長期的な入院が多いため、転院支援の依頼を受けてから転院先の病院が決定するには、1、2週間ほどの短期間での受け入れ決定は少なく、通常は2、3か月、さらに年単位での待機状況となっています。

患者さんは転院先に自宅近郊の病院を希望されることが多いのですが、福岡市内の病院の検索だけでは対応が困難であり、市外近郊や場合によっては県外の病院を検索することもあります。さらに、人工透析とADL（日常生活動作）の回復に向けたリハビリテーションが必要な場合は、病院の機能として双方整っている受け入れ病院は希少です。

そこで地域医療連携センターでは、福岡市近郊の入院透析を実施している病院に定期的に空床状況の確認を行っています。

退院支援の方法として、転院先での入院期間を短くするために、そして家族などの支援を受けながら在宅療養が早期に可能になるよう、介護保険や障害者支援費制度などの利用や、外来透析に送迎などを行っている病院の紹介などを行い、療養環境を整える対策について支援しています。

患者さんと家族が不安と負担を少しでも減らして療養を継続できるように、患者さんの状況に適する情報をできるだけ数多く提供するためには、地域医療機関との綿密な連携が重要となります。今後ともご協力をよろしくお願いたします。

病院	所在地	相談受付	受け入れ状況
1	粕屋郡A	可	急性期病院、長期療養不可 受け入れ時期目途たらず
2	粕屋郡B	可	満床、1/19現在 待機者なし 理学療法士（PT）配置あり、リハビリ相談
3	粕屋郡C	可	長期療養可能、家族面談後受け入れ可能であれば早期調整
4	粕屋郡D	可	長期不可 二人部屋（2,100円）であれば調整可能
5	久留米市A	可	地域の患者を優先 1か月程度の入院期間で相談受けるか受け入れ目途たらず
6	久留米市B	不可	受け入れ目途たらず
7	久留米市C	不可	受け入れ目途たらず 1/19現在10人程度待機
8	西区A	不可	受け入れ目途たらず
9	西区B	医師対応	受け入れ目途たらず
10	東区A	可	受け入れは家族面談後に調整
11	東区B	可	受け入れ目途たらず
12	東区C	不可	受け入れ目途たらず
13	南区A	不可	受け入れ目途たらず
14	南区B	不可	受け入れ目途たらず
15	南区C	可	受け入れ目途たらず 12月初旬相談受け付けケース目途たらず
16	宗像市	不可	長期療養可能 3月よりPT配置予定
17	柳川市	不可	入院治療の必要性ある方であれば、透析入院可能
18	八女郡	医師対応	受け入れ目途たらず

人工透析（入院）患者の転院相談への受入状況（平成23年1月現在）

# 喀痰吸引実技認定講習会を開催して

医療技術部長 **大屋 信義**

平成22年3月19日付けで、厚生労働省のチーム医療の推進に関する検討会より、『チーム医療の推進について』の報告書が提出されました。その中で、医師以外の医療スタッフが実施することができる業務の内容について述べられ、“喀痰等の吸引”に関しては、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床工学技士が実施できることになりました。

養成機関や医療機関などにおいて必要な教育・研修を受けた上記職種が吸引を行う際、特に留意すべき点は安全な実施です。本院においては、耳鼻咽喉・頭頸部外科の梅崎俊郎医師、感染制御部の安永幸枝副看護師長、救命ICUの鳥羽好和副看護師長・井上辰幸副看護師長、CCUの庄山由美副看護師長・桑田睦子副看護師長、NICUの荒田弘樹看護師らの指導のもと、約2時間半に渡る実技講習会を12月7日、14日に開催しました。

まず梅崎医師による講義（コメディカルのための喀痰などの吸引の基礎）、続いて安永看護師による講義（肺炎防止のために）を受講後、理解度を見るために筆記試験が行われました。後半は看護師による人形（シミュレータ）を用いた吸引実技講習が行われ、最後に一人ずつ実技認定試験を実施しました。

吸引を行う受講者も初めは緊張気味でしたが、講師

陣の丁寧な指導によって徐々に実技にも慣れ、無事講習を終えることができました。

最終的に理学療法士12名、作業療法士5名、言語聴覚士7名、臨床工学技士11名全員（35名）が試験に合格し、認定証が授与されました。

今後は、現場の臨床場面での経験を積み、チーム医療の推進に貢献してゆきたいと考えています。



看護師による吸引実技講習

## 広域ネットワーク型臨床研究推進事業 —— 慢性肝疾患の北部九州大規模コホート研究

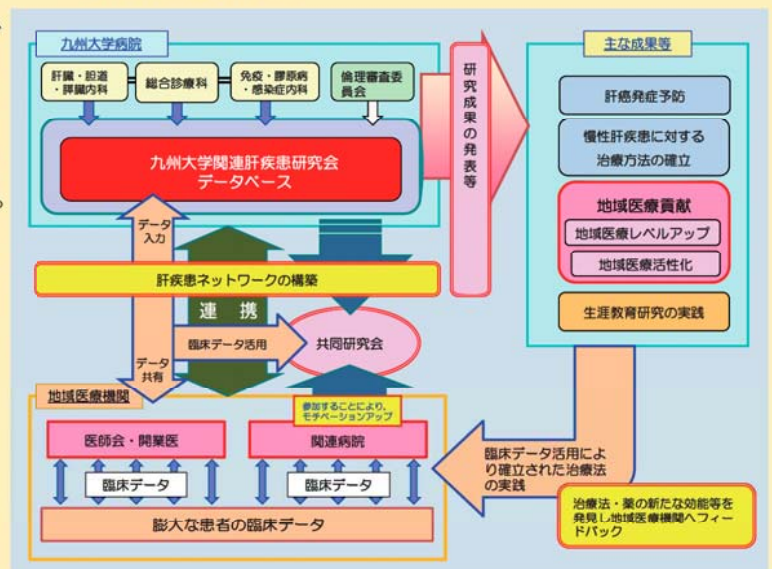
総合診療科、肝臓・膵臓・胆道内科、免疫・膠原病・感染症内科、九州大学関連肝疾患研究会 代表：総合診療科 **林 純**

私どもは平成16年から九州大学病院で肝疾患を取り扱う内科系診療科とそれぞれの関連病院とで連携を組み、九州大学関連肝疾患研究会 (Kyushu University Liver Disease Study: KULDS) を立ち上げています。B型およびC型慢性肝炎に対する治療方法を検討するため、それぞれの症例を登録して治療成績を解析し、17年からは日本消化器病学会、日本肝臓学会および日本感染症学会を中心に、九州大学病院だけでなくその関連病院の若手医師が中心になって、その解析結果を発表しています（学会報告：約60演題、原著論文：英文6編、総説：和文4編、著書：英文1編、和文1編）。

C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法については、3,000例以上の登録がなされ、現在、KULDSは日本肝臓学会の中でも多くのデータを持っている有数の研究組織として知られるようになりました。

以上のように、今まではウイルス性慢性肝疾患に限って研究をしていたわけですが、さらに自己免疫性肝疾患（原発性胆汁性肝硬変、自己免疫性肝炎、原発性硬化性胆管炎、IgG4関連肝炎）、非アルコール性脂肪性肝疾患、肝がんについても、このKULDSで取り組んでいく予定です。

この「九大病院ニュース」を読まれるほとんどの基幹病院は、このKULDSに参加されていると思います。この場をお借りして、これまでのご協力感谢您いたしますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。



開催日	大会・会議の名称		
2011年4月11日	MOC 会(運動器慢性疼痛に対する薬物療法)	【会場】	アクロス福岡 国際会議場
		【主催】	九州大学病院整形外科
		【連絡先】	TEL : 092-642-5487 FAX : 092-642-5507
2011年4月15日 ・4月16日	第9回日本ヘルニア学会学術集会 <a href="http://hernia9.umin.jp/">http://hernia9.umin.jp/</a>	【会場】	福岡国際会議場 4階5階
		【主催】	日本ヘルニア学会
		【連絡先】	TEL : 092-291-3437 FAX : 092-291-3047 (医療法人 原三信病院)
2011年4月23日	第25回日本小児ストーマ・排泄管理研究会 <a href="http://www.med.kyushu-u.ac.jp/pedsurg/stoma25/">http://www.med.kyushu-u.ac.jp/pedsurg/stoma25/</a>	【会場】	パピヨン24 ガスホール
		【主催】	日本小児ストーマ・排泄管理研究会
		【連絡先】	TEL : 092-642-5573 FAX : 092-642-5580 (九州大学病院小児外科・小腸移植外科)
2011年4月23日 ・4月24日	心療内科メディカルセミナー <a href="http://www.med.kyushu-u.ac.jp/cephal/">http://www.med.kyushu-u.ac.jp/cephal/</a>	【会場】	九州大学病院北棟9階 カンファレンスルーム
		【主催】	九州大学病院心療内科
		【連絡先】	TEL : 092-642-5318 FAX : 092-642-5336
2011年5月14日	第8回日本褥瘡学会九州地方学術集会 <a href="http://www.geocities.jp/jyokusoukyusyu2011/1.HOME1.html">http://www.geocities.jp/jyokusoukyusyu2011/1.HOME1.html</a>	【会場】	石橋文化ホール/石橋文化会館
		【主催】	日本褥瘡学会九州地方会
		【連絡先】	TEL : 0942-31-7569 FAX : 0942-34-0834 (久留米大学医学部 形成外科・顎顔面外科学)
2011年5月14日 ・5月15日	第33回日本 POS 医療学会大会 <a href="http://www.pos.gr.jp/POS2011/index.html">http://www.pos.gr.jp/POS2011/index.html</a>	【会場】	北九州国際会議場 メインホール他
		【主催】	日本 POS 医療学会
		【連絡先】	TEL : 093-511-2000 FAX : 093-511-3251 (財)平成紫川会 社会保険小倉記念病院)
2011年5月18日	平成23年度第1回福岡県院内がん登録研修会 <a href="http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/">http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/</a>	【会場】	九州大学医学部百年講堂 中ホール3
		【主催】	九州大学病院がんセンター
		【連絡先】	TEL : 092-642-5890 FAX : 092-642-5737
2011年5月20日 -5月22日	第52回日本臨床細胞学会総会[春期大会] <a href="http://www2.convention.co.jp/jscs52/">http://www2.convention.co.jp/jscs52/</a>	【会場】	福岡国際会議場 メインホール他
		【主催】	日本臨床細胞学会
		【連絡先】	TEL : 0952-34-2319 FAX : 0952-34-2057 (佐賀大学医学部産科婦人科学)
2011年5月23日	MOC 会(膝診察のピットホール)	【会場】	アクロス福岡 国際会議場
		【主催】	九州大学病院整形外科
		【連絡先】	TEL : 092-642-5487 FAX : 092-642-5507
2011年5月27日 ・5月28日	第54回春季日本歯周病学会学術大会 <a href="http://www.perio54s.org/">http://www.perio54s.org/</a>	【会場】	福岡国際会議場 メインホール他
		【主催】	日本歯周病学会
		【連絡先】	TEL : 092-801-0411(内線633) FAX : 092-871-9494 (福岡歯科大学口腔治療学講座歯周病学)
2011年5月31日	第14回福岡癌診療連携セミナー	【会場】	西鉄ソラリアホテル8階
		【主催】	九州大学大学院医学研究院 臨床・腫瘍外科
		【連絡先】	TEL : 092-642-5440 FAX : 092-642-5457
2011年6月11日 ・6月12日	第121回西日本整形・災害外科学会学術集会 <a href="http://www.congre.co.jp/wjsot121/">http://www.congre.co.jp/wjsot121/</a>	【会場】	九州大学医学部百年講堂
		【主催】	西日本整形・災害外科学会
		【連絡先】	TEL : 092-642-5487 FAX : 092-642-5507 (九州大学病院整形外科)
2011年6月24日 ・6月25日	第97回日本消化器病学会九州支部例会 <a href="http://www.nksnet.co.jp/97-91jgesk/index.html">http://www.nksnet.co.jp/97-91jgesk/index.html</a>	【会場】	ホテルマリタール創世久留米
		【主催】	日本消化器病学会九州支部
		【連絡先】	TEL : 0942-31-7566 FAX : 0942-34-0709 (久留米大学医学部外科)
2011年6月24日 ・6月25日	第91回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 <a href="http://www.nksnet.co.jp/97-91jgesk/index.html">http://www.nksnet.co.jp/97-91jgesk/index.html</a>	【会場】	ホテルマリタール創世久留米
		【主催】	日本消化器内視鏡学会九州支部
		【連絡先】	TEL : 0944-72-6171 FAX : 0944-72-2092 (財)医療・介護・教育研究財団 柳川病院)
2011年6月25日	第110回日本循環器学会九州地方会 <a href="http://www.c-linkage.co.jp/k-jcs110/index.html">http://www.c-linkage.co.jp/k-jcs110/index.html</a>	【会場】	アクロス福岡 国際会議場
		【主催】	日本循環器学会九州地方会
		【連絡先】	TEL : 092-437-4188 FAX : 092-437-4182 (運営事務局 ㈱コンベンションリンケージ)

## 九州大学病院の 理念・基本方針

### \* 理 念

患者さんに満足され、  
医療人も満足する医療の提供ができる  
病院を目指します

### \* 基本方針

- ・ 地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- ・ プライマリ・ケア診療の充実
- ・ 全人的医療が可能な医療人の養成
- ・ 専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- ・ 国際化の推進